

研究プレスリリース配信のお知らせ

10月30日 先進医療で実施中の「自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による末梢動脈疾患に対する完全自家血管新生治療法」の安全性に関する論文が掲載
 ～虚血による下肢切断の回避、疼痛軽減を目指して～
 (心臓血管外科学分野の福田尚司 教授を中心とする下肢血管新生再生医療研究グループ)

10月16日 X線透視画像と3次元CTデータの高精度な重ね合わせを実現
 (茨城医療センター整形外科 吉井 雄一 教授、筑波大学計算科学研究センター 北原格 教授の研究)

詳細は、大学ホームページからご覧いただけます。

【プレスリリース】 <https://www.tokyo-med.ac.jp/news/pressrelease/>



こころのサプリ

隙間さえあれば



画：医学総合研究所 片平 泰弘 さん
 作：う。遅れてきた猛暑が過ぎ去り、秋を感じた朝、改めてそう思った。
 (夏草)

家の近くに、空き地がある。いずれ道路路化されるため、更地にして、アスファルトで蓋をし、フェンスで囲われているだけの空間だ。
 数年前、そこには桜の木があり、春の楽しみのひとつだった。ある日、バツサリ切られてしまった。その年、空き地の除草後、地面は黒くて分厚いビニールシートで覆われたが、翌年、あつという間に雑草まみれ。一夏終わる頃にはジャングルになっていた。その後、地面はアスファルトで覆われた。
 しかし、雑草はたくましい。フェンスが打ち込まれたアスファルトの隙間から、光合成を繰り返して、気づけば歩道を遮るほどのジャングルに成長。その生命力の強さに、感嘆する。
 そんなジャングルが、今年もある朝、忽然と姿を消した。夏の終わり、恒例の除草作業が入ったようだ。そこは一夜にして、アスファルトとフェンスだけの、見晴らしのよい無機質な空間に戻っていた。
 それでも――。刈られた雑草の根はアスファルトの下で生きのびて、来年の夏、またジャングルを生み出すのだろう。
 隙間さえあれば――。人間もきつと同じだ。隙間なくスケジュールを詰め込んでしまったら、逃げ場がなくなってしまう。体調も崩すだろう。考える余白をなくしたら、人は前に進めなくなってしまう(もちろん、そうでない鉄人もいるだろう)。
 そうなる前に、凡人の私は、日々の合間にちゃんと「余白」を作ろう。遅れてきた猛暑が過ぎ去り、秋を感じた朝、改めてそう思った。

こころのサプリ作品募集 皆さんの日常の「ちょっといい話」「ホッコリする話」を投稿してください！

◎字数：600字程度、タイトル：12文字以内 ◎応募対象者：現在学生および教職員 ◎タイトル、氏名(掲載の際、ペンネームを希望される方はそのペンネームも)を明記し、法人企画部経営・人事企画室(keiei@tokyo-med.ac.jp)までメールにてご応募ください。 ◎採用された方には、後日連絡いたします。 ◎採用された方には、記念品を差し上げます。
 ◎挿絵イラストを描ける方も募集しています。是非ご連絡ください！